

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分	実績	整理番号	7	課題区分	C	令和8年(2026年)2月25日
横断的な課題	伝統を守り未来を見据えた持続可能な地域づくり					南信州地域振興局
地域重点政策	伝統を守り未来を見据えた持続可能な地域づくり					
実施機関	南信州地域振興局			担当課	所属 環境課	
事業名	環境産業見本市事業			電話	内線2324	
				E-mail	<a href="mailto:minamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp">minamichi-kankyo@pref.nagano.lg.jp</a>	
事業概要	目的 (目指す姿)	ゼロカーボン社会の実現に向けて不可欠なのが、再エネの活用、省エネや資源の有効利用に関わる企業のイノベーション(技術革新)である。 ESG(環境・社会・企業統治)に積極的な企業が世界的に評価されるようになり、環境や社会に配慮した商品やサービスへの関心が高まりつつある中、ウクライナや中東情勢を背景に化石燃料の高騰が続き、エネルギー問題は経営に直結する課題となっており、県内企業の脱炭素化は大きく動き出す必要性がある。 そこで、脱炭素化を推進する見本市を開催することで、地域企業が持つ環境や社会に配慮した商品を広く紹介し、販路拡大に結び付けるとともに、地域企業の環境技術の開発等による産業振興を図り、労働力人口・人材の確保を推進する。				
	現状と課題	長野県ゼロカーボン戦略に掲げた2030年度の温室効果ガス排出削減目標(2010年度比6割減)に対し、現状ペースの進捗では目標達成が困難な状況であることから、県では十分な効果が見込まれる施策や、加速化が必要な部門を明らかにし、施策効果の高い重点施策を押し進めている。 ※ 温室効果ガス排出量削減目標<2030年度ロードマップシナリオ>産業・業務部門 ▲ 284万t-CO2 また、南信州地域振興局管内においては、温室効果ガス総排出量は年々減少するとともに再生可能エネルギー導入容量が増加しているが、2050ゼロカーボンに向けては、今後も更なる取組みが必要な状況にある。 初開催の今回は、出展者数(25)が、目標値(27)に近い数を確保できた一方、出展者からは、来場者が少ないとの意見が挙がった。				
	内容 (変更後の内容)	南信州環境メッセに併せて、地域企業が持つ環境や社会に配慮した商品の展示会及び商談会を開催し、産業分野のゼロカーボン推進を図る。  ○日 時:令和7年10月31日(金)10:00~15:00 (南信州環境メッセ:11月1日(土)~2日(日)) ○会 場:エス・バード(飯田市) ○内 容:(1) 企業展示ブース…製造業を中心とする企業による各種ブース展示 ア 温室効果ガス削減に向けた製品・商品づくりに係る展示 イ 省エネ、再エネ技術の革新による新たな環境産業の創出に係る展示 ウ 温室効果ガス削減に向けた事業所内の取組み(エコアクション)に係る展示 (2) ビジネス商談会…上記の出展者及び来場者によるビジネス商談会				
事業期間	令和7年4月 ~ 令和8年1月					
事業費等	(単位:円)					
	事業を構成する細事業名等	実施内容	計画額	備考		
	会場等使用料	展示用有孔パネルの借用ほか	102,000	エス・バード		
	複写機使用料	事業周知チラシ印刷 6,700部	34,452	複写機		
	事業企画運營業務委託	会場設営等運営一式	1,168,200	39ブース		
	出展企業紹介用パンフレット作成	36頁 300部 A-4 マットコート70K	108,900	出展者・来場者への配布用		
	合 計		1,413,552			
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況	
	出展者数(前回25者×30%増)※会場規模の最大値		33者	32者	未達成	
	出展者のイベント満足度<「概ね満足」以上の割合>(前回68%から10ポイント増)		80%以上	59%		
	来場者数(前回101名×100%増)※広報強化による倍増		200名以上	95名		
事業実績・成果	・イベント内で、出展団体でもある信州大学による水素に関するミニ講演を開催するなど、集客に向けた工夫を行い、企業関係者の来場の他、一般住民の来場も得られた。 ・出展者の募集からイベントPR並びに新聞紙面での関連記事の掲載等を通じて、産業分野でのゼロカーボンへの関心の広がりや理解の浸透がみられた。					
今後の方向性	企業が出展し易くするために平日開催としたが、出展者は目標33者に対し、32者にとどまった。出展者を募集する中で、南信州地域は、諏訪・上伊那地域などと比較して、部品製造(下請業務)を担う企業が多く、自社における環境関連技術等の開発は行っていないため出展する内容がない、との声が聞かれた。一方、来場者数は、日本経済新聞への広告などを行ったが、昨年度と同様、十分な成果を得られなかった。以上から環境産業に特化した型式での産業展示会的イベントへの需要及び反応は、比較的小さいものと思料されるため、令和8年度は、開催を見送る。					